

ストップ 循環器病

心筋梗塞(MI)を未然に防ごうと、日本循環器学会が2016年度から始めた「STOP MI キャンペーン」の初のモデル地区に、大阪府摂津市が選ばれた。キャンペーンを主導する国立循環器病研究センター心臓血管内科医長の田原良雄さん(49)に意義などを聞いた。

心筋梗塞予防キャンペーン



国立循環器病
研究センター
心臓血管内科医長
田原良雄さん

心臓を動かす筋肉細胞(心筋)に血液を送る冠動脈は、「プラーク」と呼ばれる脂肪などの塊ができる。と細くなり、プラークが破裂すると血栓(血の塊)ができて詰まります。その結果、酸素や栄養が届かなくなった心筋は、壊死します。この状態が、心筋梗塞です。

前兆を見逃さないで

正しい情報 積極的に発信

高血圧や喫煙などの生活習慣が原因と考えられています。

学会の調査では、年間約10万人が発症し、約4万人が亡くなっていると推定されます。このうち病院に搬送される前に亡くなる人は8割以上に上ります。心筋梗塞になる前から治療を受けることが大切で、そのための知識を広げることがキャンペーンの狙いです。

心筋梗塞を発症する前段階の状態を、「不安定狭心症」と呼びます。その時点で、①経験のない胸の痛みや圧迫感②胸焼けに似た違和感③腕や肩、歯、顎の痛み――などの症状が出やすくなります。歩いたり、階段を上ったりすると症状が強まることもあります。

この心筋梗塞の前兆といえる症状が、数分以上続いたり、繰り返したりする場合は、専門医を受診してください。ただし、チクチクとした痛みや、深呼吸で強まる痛みは別の原因も考えられます。こうした情報を積極的に発信していきます。

モデル地区に選ばれた摂津市では、市民健康教室を開くなどして知識の普及に努める考えです。同市は、国循の移転先となる再開発エリア「北大阪健康医療都市(健都)」の構成自治体の一つ。大阪府内でも心筋梗塞で亡くなる人が比較的多く、国循は、キャンペーンを通じてこの数をどこまで減らせるかを調べるつもりです。